

学校名：神奈川県立横浜清陵総合高等学校

担当：英語

氏名：黄金井 貴徳

1. 今回の研修における目的やねらい

国際理解教育の知識・理解・技術向上を目的として、今までに訪れたことのないアフリカ大陸を実際に訪問し、その国の文化に触れ、人々と対話をすることで理解を得ることを目的とした。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

達成度で言えば計り知れないほどの経験を得ることができた。

事前研修の段階から、「タンザニアのイメージとは？」という問いに対して、自分の浅はかな知識と偏見から生み出されたイメージ（例えば、茶色、黒など）と実際に見て感じたタンザニアは大きく異なることがわかった。またこれほどまでに自分の中に決まりきっていた価値観に疑問を抱くことになったことは、今回を置いて前例が無い。それほどまでに今回の研修で得たものは大きかった。

3. タンザニアから学んだこと

率直に言えば『「幸せとは何か」がわからなくなったこと』が一番大きな学びであった。

いわゆる発展途上国には日本のような先進国に比べ、ライフラインやインフラ、そして資源開発などが遅れているというのは客観的な数値で表せば確かである。しかし、このタンザニアの人達は皆明るく、笑顔が絶えない。学校の子どもたちは、自分たちが使っている一見脆く、整備の整っていない文具や教室の備品に疑問や不満を抱くことなく、一生懸命に勉強しとても素直な笑みを見せる。街にいる人々も出会えば見知らぬ私たちにも笑顔で挨拶をし、受け入れてくれる。

事前研修で開発や支援について学び、実際のアクティビティを通して、どう支援するのが正しいのかを学んできた。そしてその先にはその人々の快適で健康な生活と幸せがあるのだと思いこんできたが、このタンザニアに訪れて実際にこの幸せそうな生活をしている人たちを見て、本当に開発や支援は必要なのだろうかと思うようになっていった。

翻って、物に溢れている日本ではタンザニアの人々のように楽観的で誰にでも笑顔で挨拶を出来る人は総じて少ない。それが幸せか不幸か判断は出来ないが、少なくとも物質的な価値がその人の幸福度を相対的に表すかと言うとやはり疑問であると感じたことが一番大きい。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

- ・国際理解教育に関する題材の際に、今回体験した知識を活かした授業をしたい。特に実際に自分が思っているその国のイメージや知っていること、偏見を持っていることと、実際に訪れてわかる事は大きく異なるということを理解させたい。
- ・「違い」を理解することと同時に「同じ」部分にも焦点を当てた指導を行いたい。離れた国に住んでいる人間でも、本質的には変わらないということに気づかせる授業を行いたい。
- ・海外で活躍している多くの日本人がいることに興味を持たせたい。その人たちが誇りを持って、その国の人々の為に働いていることを学ばせ、グローバル社会に対応できる力について考えさせたい

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

私たちが行っている修学旅行の本質とはこうあるべきだなと思いました。学んだことについて疑問を持ち、探究したくなり、知ったことを周りの人に教えたいという気持ちになれることは教育の目的とするところを実感できたことです。またたくさんの人に巡り合うことが出来、新しい価値観を身につけることが出来たことも自分の宝となりました。

この研修をよりよくするためには、出会った人たちと継続的に連絡を取り合い、常に新しい情報を取り入れていくことだと思います。タンザニアは現在急速に発展している国であり、なかなか容易に訪れることは出来ません。そのため、自分が訪れた時とのタンザニアは生徒達にいずれ教える時には大きく変化をしている場合があります。今後も連絡が取り合えるよう名刺を持参して行った方がよいと思います。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

それぞれの役割がきちんと機能をし、協調性を持って行動していたため、大きな問題もなかった。私はホテル係として主にチェックイン関係やレストランの予約、注文などを行った。英語が慣れていたため、順調に業務をこなすことが出来たと思う。

今後の役割としては「健康係」を設置した方がよいと思う。毎日の健康チェックと市販薬の管理などを行うことで、研修を無事に遂行することができるのではないかと思う。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

全員が共通して感じていることかと思うが、想像しているよりも遥かに勉強になったし、何よりも研修を楽しむことが出来た。もっと積極的に現地スタッフと話せばよかったかと反省している。

何よりも今回の研修を計画頂き、現地でもサポートしてくださった JICA の皆様に感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。他の教員にも来年の研修を薦めたいと強く思いました。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

誰もが行く前はタンザニアの食事についての不安を抱くかと思いますが、大変美味しく、食べやすいので不安に思わなくても大丈夫です。健康面に関しては、疲れが増している時に体調不良になりやすいため、無理をせず、早めに就寝することが大事だと思います。

9. 各訪問先等の所感

日時	テーマ	所感
8月10日(月)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	出発の前にミーティングを行い、各自の持ち物と企画について確認をした。いよいよ出発という実感がつかないまま長旅を経て、タンザニアへ。アフリカの都市部は発展しているが、電柱などが木で出来ていたり、道路の真ん中で商品を売る人があふれるなど、都市部の中での経済的なギャップがさっそく見られた。
8月10日(月)	JICA タンザニア事務所表敬研修ブリーフィング	長瀬所長からは今後は日本とタンザニアのかけ橋となるような授業を子どもたちにして欲しいと言われた。
8月10日(月)	JICA 所員との懇親会	アフリカの地に何年も住んでいるという方々が多く驚いた。スワヒリ語を学ぶためにアフリカに留

		学した方など、エネルギッシュな人たちにあふれていて話を聞いているだけでも様々な発見がありとても面白かった。
8月10日(月)	本日のふりかえり	初日の振り返り。まずは長時間の移動で全員かなり披露気味だったので早めに寝ることにした。
8月11日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	タンザニアが年 GDP 6 - 7%の急成長をしている国であり、アフリカ屈指のコメの生産地であるということ、そして天然ガスが出たことにより今後どのように発展していくのかをますます見ていたい気持ちが高まった。
8月11日(火)	本日のふりかえり	この日から全員で体調を全員で共有することにした。翌日は中学校訪問だったので、ソーラン節の動き確認と交流の流れの確認を行った。早朝5時出発だったため、すぐに就寝した。
8月12日(水)	キリマンジャロへ移動	早朝の移動。キリマンジャロまでの移動は国内線ですぐであった。モシに移動してからはダルエスサラームと異なり、誰もが抱くアフリカのイメージ像のままの道なりだった。永遠と続くメイズ畑、時折見られる家畜の群れ、どの家も同じように見える茶色いレンガ造りの家。
8月12日(水)	キリング中等学校 赤木隊員活動視察	一番驚いたことは学校に本が全然無いということだった。図書館が作りかけということだが、そもそも蔵書が入る様子も完成する様子も見えない。職員室にも参考書のような本が数冊ある程度で子どもたちが読むような物は見当たらなかった。学校での授業はすべて英語で行い「何が幸せか」という問いに順調に答えてもらうことが出来た。「教育」を選んだ生徒が一番多く理由を聞いてみると「さまざまな仕事につけるから」ということだという。のちの振り返りでも話題に出るが、この国の教育は一昔の前の詰め込み型、高学歴を目指す画一的な教育に非常に似ていると思った。
8月12日(水)	モシへ移動	はじめて市場で買い物をする機会があったので、手荷物に気をつけながら有名なカンガを選んでいった。一つ一つにメッセージが込められているので、同行してもらっている足立さんに意味を教えてもらい、一つ購入。
8月12日(水)	隊員との懇談会	夜はモシの近くの豚料理が美味しいというお店に隊員の方に案内してもらった。翌日の警察学校の学校長に会えるかまだわからないとのことだっ

		た。柔道の専門家として来ている平川さんは柔道をする畳が職場にはなく日本の先生達に畳を譲ってもらえるよう協力を呼び掛けてほしいとのことだった。
8月12日(水)	本日のふりかえり	2クラスにて授業を行ったのだが、どちらも教育が一番という結果になった。学校では教育の重要性を子どもの頃から刷り込まれているため、本心から答えているかどうか疑問であるという意見が出た。この日は一日の活動が合計15時間を超えていたため、メンバーも疲労でいっぱいになっている。
8月13日(木)	カラंगा小学校 植松隊員活動視察	中学校でソーラン節をやった際に子どもたちがただ見ているだけで、もっと参加できるようにしたいという声が振り返りで出たので、子どもたちと一緒に掛け声を出してもらおうように変えてみたところ、終わってからも「ドッコイショードッコイショ」と叫び続けていた。 小学校では体罰が当然のように行われており、ムチをもっている先生もいた。保護者もそれを当然と思っているようであり、我々からすると驚きを隠せなかった。幸いにもその現場を見ることはなかったが、比較的厳しい態度で授業をする先生が多いと感じた。「自分が好きなモノ」をクレヨンで描く授業を実際に行ってみたが、ここで起きた問題はこちらがクレヨンの指示をしない限り、子どもたちはどの色のクレヨンを使えばいいか待ってしまうところであった。また食べ物などを書く際も一色で書こうとしてしまい、「様々な色を使ってよい」という指示がない限り、工夫をする様子が見られなかった。これも画一的な教育の弊害なのかと思った。
8月13日(木)	警察学校 江波戸隊員活動視察	警察学校の敷地は非常に広く、歩き回るだけでも相当の時間を要した。たまたま警察学校の生徒が入隊する前だったため、敷地内は閑散としていた。専用の寮があるが、とても心地よい生活が送れるとは思えないものだった。江波戸隊員達が行う柔道の教室は噂の通り、畳一つなく、草の上にシーツを敷いただけで、凹凸が激しく、受け身を取っても痛みが残るような場所であった。ナショナルチームなどはあるそうだが、そもそも国がスポーツに対して力を入れようとする様子がないようで、その支援はやはり遅れていると感じた。

8月13日(木)	本日のふりかえり	<p>中学校、小学校の両方で日本人の隊員が言っていた事はやはり計算が出来ないことなのだという。一見ノートもきちんと取れているが、負の数の計算などになるとさっぱり理解が出来ないようだ。将来なりたいものはと聞くと「医者」「弁護士」と言うが、それはお金になるというのを知っているからであり、その他の職業について出ることは無い。それは本やテレビなどが無い家庭がまだまだ多く、家と学校の往復だけで、親と教師以外ほとんど合わないからではないかという話が出た。</p>
8月14日(木)	タンライスプロジェクト視察	<p>JICA との連携で改善されていったローアモシ地域の灌漑施設とコメの作り方の支援は大変興味深かった。農園は本当に新潟などのコメ畑と全く同じ形で驚いた。そして今後はよりよい品質のコメを作り、どうマーケティングをしていくかというのが課題となるという話になったが、やはりそうすると数学の苦手なタンザニア人は苦勞するのだろうと思う反面、支援する側の経済的な思想が埋め込まれていってしまうのではと危惧する気持ちもあった。</p>
8月14日(木)	専門家との懇親会	<p>電力が行き届いておらず、食事中に度々停電となり暗闇の中食事をする時間もあった。専門家の小林さんのお子さん達は停電になってもまったく動揺せず、またいつものことかというような様子であった。電気が当たり前のようにある日本人からすると停電は死活問題であり、その分私達は決して「強い国」とは言えないとも感じた。</p>
8月14日(木)	本日のふりかえり	<p>小林さんが今回のタンライスプロジェクトで発していた「参加型の支援であり、人材育成」という言葉が頭に残った。つまり、一方的な支援は社会的な摩擦になりかねないということであった。これにはとても納得した。自分が支援やら開発という事を考える際には、いつも頭をよぎっていたのがこういった事であったからだ。JICA は本当によく考えているなあと感激した。</p>
8月15日(木)	タンライスプロジェクト農村視察	<p>農村の中でも比較的裕福な家庭にお邪魔した。それでもとても大きい家とは言えないが一家でとても幸せな暮らしをしているのが伝わってきた。お母さんが作ってくれた手料理はとても美味しく、3杯も頂いてしまった。家事は女性がやるものという考えが根強いようで、男性で後片付けをやってみたところお母さんは大喜びで笑っていた。やはりそういうところも昔の日本に近いのだろう。</p>

		それはそれで一つの文化なので否定する気も、遅れている、進んでいるもないような感じがした。
8月15日(木)	市内視察	多数の民芸品を購入した。魅力いっぱいの商品がたくさんあったので、もっと買ってあげばよかったと帰国してから少し後悔した。
8月15日(木)	本日のふりかえり	どんどんこの国の魅力に触れ好きになっている自分があるのがわかった。しかし、まだまだこの研修では、いわゆる光のあたっている人達や場所ばかり見ているからなのかもしれないと思った。もっともこの国の全体を見てみたいと思った。
8月16日(金)	ダルエスサラームへ移動	5日ほどしか経っていないのに、こちらに戻ってくるとすごく前のような気がしていた。犯罪が多い街だという危機意識が大分揺らいでいたので、手荷物をしっかり持って移動した。
8月16日(日)	専門家との懇親会	日本の電力会社の方々と様々な話をした。自分が想像していた以上に色々な国に飛んで働かされている方達なので、その苦労とその感動は計り知れないだろうなと思った。色々話を聞くだけで十分楽しめたし、たくさん学ぶことが出来た。
8月16日(日)	本日のふりかえり	それぞれの訪問した農村について話をまとめた。やはりどの家でも女性が家事という習慣があるのは共通していた。
8月17日(月)	タンザニア電力供給公社(TANESCO)プロジェクトサイト視察	実際に日本でも勉強したことのない電力の仕組みなどを見学して大変面白いと感じた。電気が安定して供給されることで、より安全で笑顔があふれた社会になることを望むというプロジェクトメンバーの考えは素晴らしいし、こういう日本人が多く活躍しているということを伝えていきたいなと思った。
8月17日(月)	市内視察・教材購入	ティンガティンガ村などでアート品や楽器を購入した。残額がほんのわずかになるまで買い物をした。絵本を使った授業も考えていたのだが、あまり現地の本は少なく授業で使えるかどうかわからなかった。
8月17日(月)	本日の振り返り	授業実践について色々ディスカッションを行ったが、当初やろうと思っていたことと皆大分変わってきた。自分も海外で活躍する日本人について焦点をあてるのも良いかなと思った。
8月18日(火)	ムランディジ小学校 三隅隊員活動視察	最後の交流ということでメンバー全員一丸となって頑張った。特別支援教室も見ることが出来たが、こういう教室があるのはほんのまだわずかしかないうことで、どの子にも教育を受けさせる制度が出来るといいなと感じた。

8月18日(火)	市内視察・教材購入	いわゆるショッピングモールにて最後の買い物。外国資本の為か商品が非常に高額であり、日本のモールと同じような展示方法で、あまりユニークさを感じなかった。
8月18日(火)	JICA 所員との懇親会	長瀬所長や JICA 職員の人達とこの研修で感じたことなどを意見交換した。最初に来た頃よりも考え方が全員大分変わってきたし、先生同士の仲もとても深まったのを感じた。
8月18日(火)	本日のふりかえり	最後の最後まで様々な事を考えていたが、現地ですぐの事を知って、その人達と合うと一層開発教育というものが見えなくなってくると感じた。それが今の段階では一つの答えとしてあっても良いと思うし、少なくとも多くの価値観を学ぶことは出来たのは大きいと感じた。
8月19日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会および記者発表会	記者発表の方々が来ていたので英語通訳をして私達の想いを伝えた。記者の方々も私達に対して好意的であり、関心を寄せてくれたと思う。今後の日本とタンザニアのかけ橋になれることを期待したい。
8月19日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	吉田雅二大使からは様々な深い話を頂いた。中でも印象に残っているのは、若い人が留学に行くと先進国のアメリカ、カナダなどが良く出るが、今後はアジアやアフリカなどチャンスが広がっていて、かつ文化が全然違うところに身を置いて、自分の国のことを良く知り、たくさん学ぶことが大事であると日本の子どもたちに伝えて欲しいとおっしゃられた。いつの日か生徒達にタンザニアに来てもらえるようなメッセージを込めて授業をしたいと思った。
8月19日(水) -20日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	長いようであつという間の10日間だった。帰りの道はドーハを系由するのだが、もうそこは電気であふれた世界。しかしそこにはタンザニアにあふれている、電気よりも「明るい」笑顔は無かった。日本に近づくにつれ、時差とそのかけ離れたようで近い文化は、私達が遅れているのか、それとも進んでいるのか、「幸せ」を基準にした時、どんどんわからなくさせていった。